

平成 25 年 『レストラン併用住宅（木造 2 階建）』について

今年度は、平成 19 年以来、6 年ぶりの木造の店舗併用住宅の課題です。

〔併用住宅課題の特徴〕

課題対策にあたって、次のような重点項目があげられます。

①店舗と住宅の「外部アプローチの分離」と「内部の連絡」

最重要項目で、これに違反すれば失格となります。

②レストランの機能的な計画

客席スペースの配置と厨房等への動線計画

③店舗の規模と住宅の 1・2 階の規模構成

延べ面積は、210 m²～230 m²を考えておけばよいでしょう。

一般に、住宅部分の床面積は、130 m²～140 m²が標準で、店舗部分の面積によって、住宅部分の玄関以外を 2 階に計画する『総 2 階』や住宅の一部居室を 1 階に計画する『一部平家建』となります。今年度レストラン部分の規模は、平成 19 年の『喫茶店併用住宅』よりも厨房が大きく 70 m²前後なるので、『客席スペースを平家』とする**可能性が最も高い**と考えられます。

④住宅部分の家族構成と要求室の配置

家族構成は、夫婦でレストランを営み、同居する子供が 1～2 人の計 3～4 人が妥当です。ただし、核家族化、高齢化による**社会問題への配慮から**、高齢者との同居の可能性もありますので、その場合の日照の確保や段差処理などの対応も考えておきましょう。

⑤屋外スペースの条件

併用住宅課題では、自動車 2 台～4 台分、自転車 5 台分と広い**屋外**スペースが求められることが多いことから、建物の配置計画やアプローチの計画に注意が**必要となります**。

⑥将来のバリアフリー対策

将来の在宅介護等、高齢期の生活の場として、**現在は**高齢者がいなくても住宅のバリアフリー化の要求は当然あるでしょう。また、1 階部分の廊下寸法指定、1・2 階便所寸法指定、浴室、洗面・脱衣室の面積指定があればそれに従わなければなりません。

⑦用途の異なる 1・2 階の構造計画（梁の架構計画（スパンと部材断面）、耐力壁の量と配置）

専用住宅と比べ、1 階の店舗は柱・壁の少ない大きなスペースが求められるため、2 階の住宅と壁の位置を一致させることが難しい建築物です。

1・2 階の異なる空間をうまく整合させながら配置する合理的なプランニング法を覚え、平面図と伏図は常に一体的に考えられる練習が大切です。

⑧ 5 時間内の答案の完成

答案完成のポイントは、矩計図（かなばかりず）です。効率的な手順を身に付けることで、矩計図を 1 時間で描けるようにし、プランニングの時間を確保しなければなりません。

⑨計画の要点記述

答案した計画に関して計 100 字～200 字での記述が求められます。アプローチ計画、居室の配置・動線計画などに関して、『その理由』『その目的』『そのために工夫したこと』が、課題の特色に逸脱しないよう、簡潔に説明できるような練習が必要です。

